Form No. 3446-746 Rev A

TransPro™ 200 牽引トレーラ

モデル番号 04219—シリアル番号 400000000 以上
モデル番号 04229—シリアル番号 400000000 以上
モデル番号 04239—シリアル番号 400000000 以上

取り付け要領

安全について

- トランスプロ 200 トレーラは、歩行型グリーンズマスターを搬送するための専用トレーラです。他の機械を搬送するとトレーラを破損させたり人身事故を起こす危険があります。搬送可能なマシンについては搬送可能なモア (ページ 9) を参照してください。
- 牽引は、適切な牽引能力のある車両で行ってください。トランスプロ 200 にグリーンズマスター 2 台を載せたときの合計重量はおよそ 522 kg になります。牽引に使用する車両がこの重量に相応しいブレーキ能力を備えていることを必ず確認してください車両メーカーの仕様書を確認してください。
- グリーンモアを積み込むときや降ろすときには、トレーラが牽引用車両に確実に接続されていることを確認してくださいヒッチが外れているとトングが突然跳ね上がるなどして大変危険です。トレーラトングは、牽引車両に取り付けたときに地表面と平行になるように調整してください。
- トレーラを牽引するということは、牽引車両にそれだけの負担がかかるということです。速度を落として運転しましょう。
  - 高速道路や公道を走らないでください。
  - カーブの手前では必ず減速し、ゆっくりとした速度で旋回してください。
  - 地表面がラフな部分や表面の状態がよくわからない場所に入り込む場合には必ず十分に減速してください。
  - 進行方向を変えるときや、停止する場合にも、必ずその前に十分に減速するようにしてください。
  - 旋回時や法面では必ず減速してください。
  - 急旋回や急停止をしないでください。坂道、ランプ、傾斜面、法面などでは進行方向を急に変えないでください。
  - 牽引時の最高速度は 24km/h です。つねに、地表路面状態を確認しながら、状態に合わせて走行速度を調整してくださいぬれていて滑りやすい場所、砂地や砂利で走りにくい場所、視界の悪い場所、夕暮れ時や夜明け前、霧、もや、雨などの条件に合わせてください。
  - 特に、重いものを搭載・牽引して下り坂を走るときには安全に十二分に注意してください。傾斜地では、可能な場合は必ず、真っ直ぐに登って真っ直ぐに降りるルートを選んでください。法面の横断左右に傾いての走行は仮に可能であってもしないでください。車両が横転する可能性が常に存在し、万一横転した場合には重大な事故となります。
- バックするときには、後方の安全に注意し、車両の後部に人や物がないことを確認してください。バックするときには低速で、トレーラの動きをきちんと観察しながら下がってください。
- トレーラを接続した状態の後退走行には細心の注意が必要です。
- 道路付近で作業するときや道路を横断するときは周囲の交通に注意してください。歩行者や他の車両に対し、常に道を譲る心掛けをもちましょう。.
- トレーラが異常な振動を始めたときは直ちに牽引車両を停車させてください。牽引車両のエンジンを止める。破損部は必ず修理交換してから使用を再開するようにしてください
- トレーラの整備や調整を行う前には、以下を守ってください
  - 牽引車両を停止し、駐車ブレーキを掛け、
  - 牽引車両のエンジンを止め、キーを抜き取る。
- 全部のボルトを確実に締め付けておく。整備中や調整中に外したパーツは必ず元通りに取り付けてください。

© 2021— The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420

製品の登録は www.Toro.com.

CE

この文書は翻訳です。 (JA)
Printed in the USA
禁無断転載

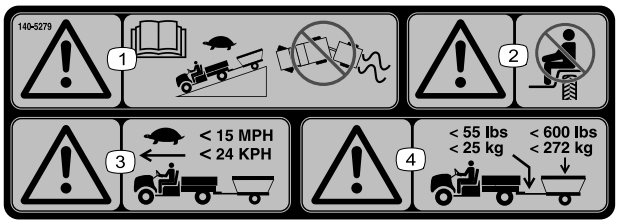
3446-746

安全ラベルと指示ラベル

以下のラベルや指示は危険な個所の見やすい部分に貼付してあります。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。

decal133-8061

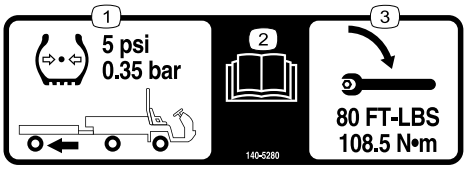
133-8061



decal140-5279

140-5279

1. 警告 *オペレーターズマニュアル*を読むことトレーラを引いて坂を下る時には速度を十分に落とし車両とトレーラを確実に制御すること。
2. 警告 人を乗せないこと。
3. 警告 トレーラを引いて走行する時には速度を 24 km/h 未満に抑えること。
4. 警告 トレーラの最大重量は 272 kg トングの最大重量は 25 kg。



decal140-5280

140-5280

1. トレーラのタイヤ空気圧の適正値は 0.35 bar5 psi。
2. *オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. トレーラのホイールナットを 108.5 N·m11.0 kg.m = 80 ft-lbにトルク締めする。

decal140-5281

140-5281

1. 警告トレーラに人を乗せないこと。

取り付け

適切な構成キットを取り付ける

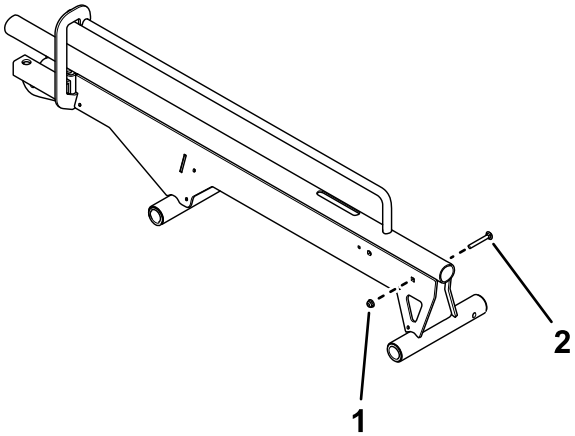
以下の構成キットから選択して取り付けてください

- レール式搭載キットモデル 04229 レール式搭載キットの取り付け (ページ 2)を参照
- タイヤ式搭載キットモデル 04219 ホイール式搭載キットの取り付け (ページ 5)を参照

レール式搭載キットの取り付け

注 以下の要領で左右のレールを取り付けます。以下では、レール式搭載キットのうちの右側部分の取り付け手順を説明しています。

1. ランプアセンブリにキャリッジボルトとフランジナット¼"を取り付ける図 1。



g348132

図 1

図は右側。

1. フランジナット¼"
2. キャリッジボルト

2. ピンと六角ヘッドねじを使用して、ホイールストップをレールアセンブリに固定する図 2。

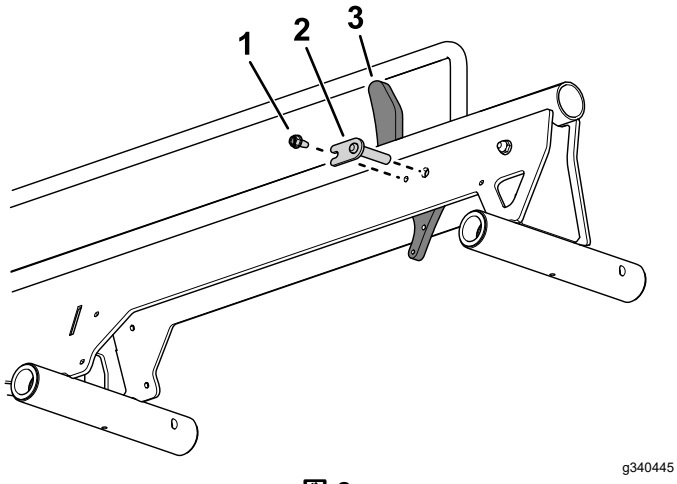


図 2

1. 六角ヘッドねじ
2. ピン
3. ホイールストップ

3. チェーンリンクを使って、チェーンをターンバックルに取り付ける図 3。

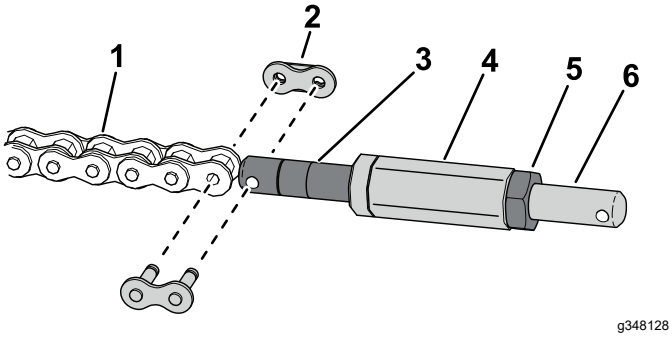


図 3

1. チェーン
2. チェーンリンク
3. チェーン・ターンバックル
4. 六角シャフト
5. ジャムナット
6. チェーンリンク・ターンバックル

4. チェーン・ターンバックルに六角シャフトを取り付ける図 3。
5. ジャムナットを使って、チェーンリンク・ターンバックルを六角シャフトに取り付ける図 3。
6. チェーンリンクを使って、チェーンリンク・ターンバックルをホイールストップに取り付ける図 4。

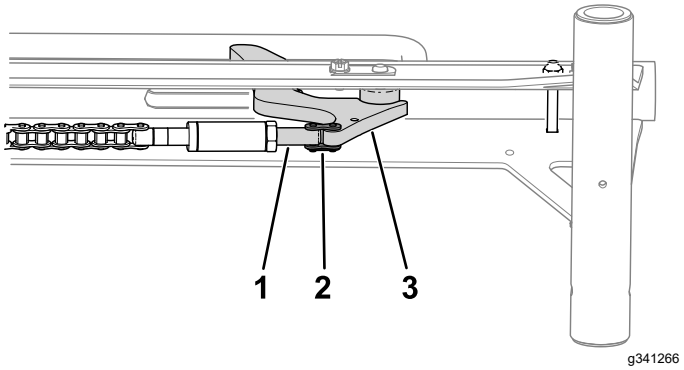


図 4

1. チェーンリンク・ターンバックル
2. チェーンリンク
3. ホイールストップ

7. ホイールストップとレールアセンブリの内側のボルトにスプリングを取り付ける図 5。

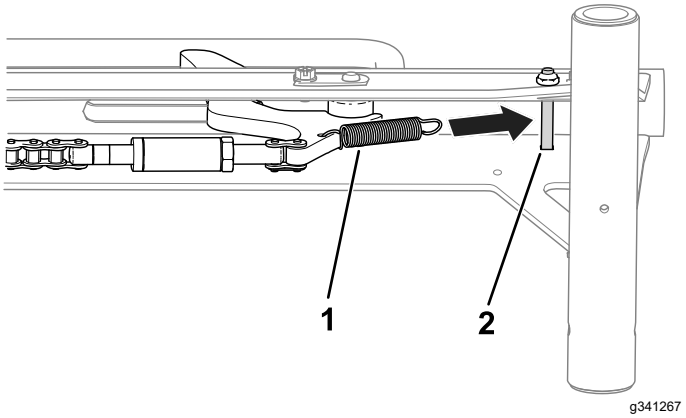


図 5

1. スプリング
2. ボルト

8. フランジナット5/16"、ワッシャ2枚、ショルダボルトを使用して、ランプアセンブリをレールアセンブリに固定する図 6。

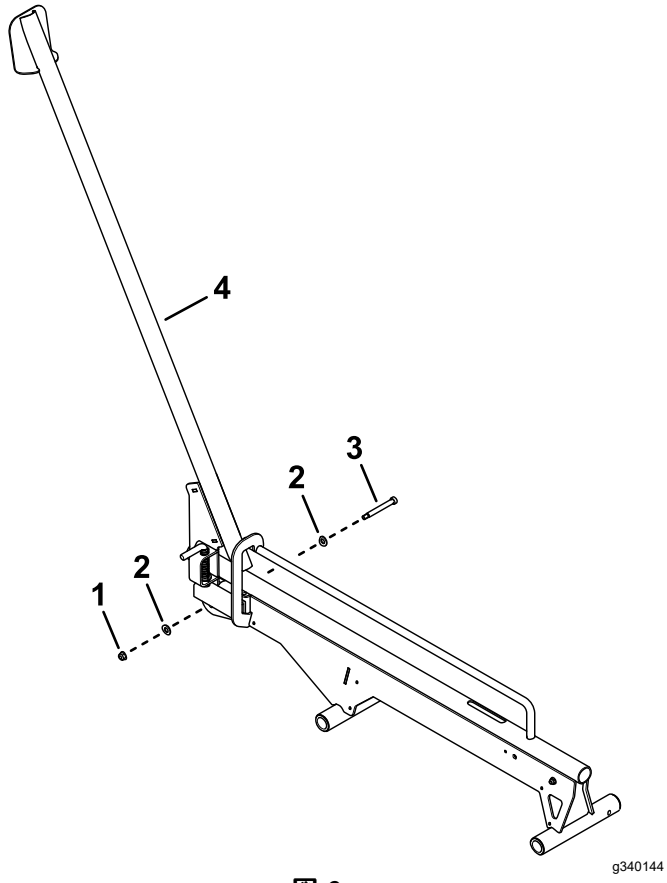


図 6

1. フランジナット (5/16")
2. ワッシャ
3. ショルダボルト
4. レールアセンブリ

9. チェーンリンクを使って、チェーンをランプアセンブリに取り付ける図 7。

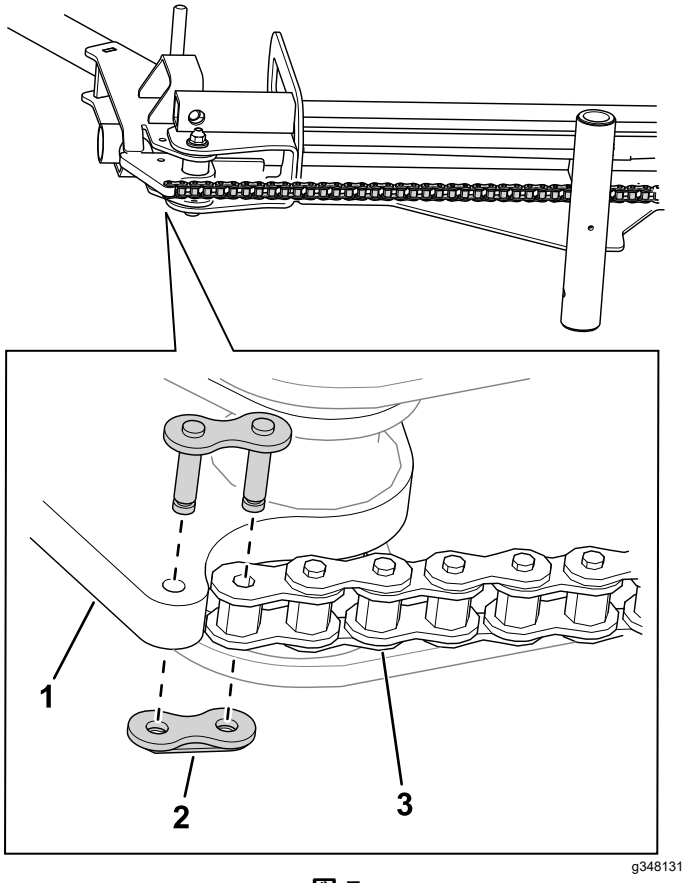


図 7

1. ランプアセンブリ
2. チェーンリンク
3. チェーン

10. 六角ヘッドねじ10本で、チェーンカバーをランプアセンブリに固定する図 8。

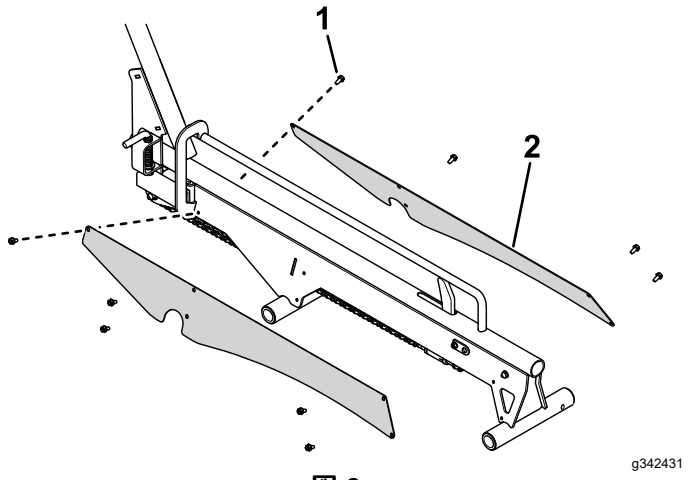


図 8

1. 六角ヘッドねじ
2. チェーンカバー

11. ストップギャップの長さを確認する ストップギャップの点検 (ページ 16)を参照。

ホイール式搭載キットの取り付け

注 以下の要領で左右のホイールランプを取り付けます。以下では、ホイール式搭載キットのうちの右側部分の取り付け手順を説明しています。

1. トルクスねじ4 本とナット4 個を使用して、ラッチピンブラケットをランプアセンブリのガイドプレートに固定する図 9。

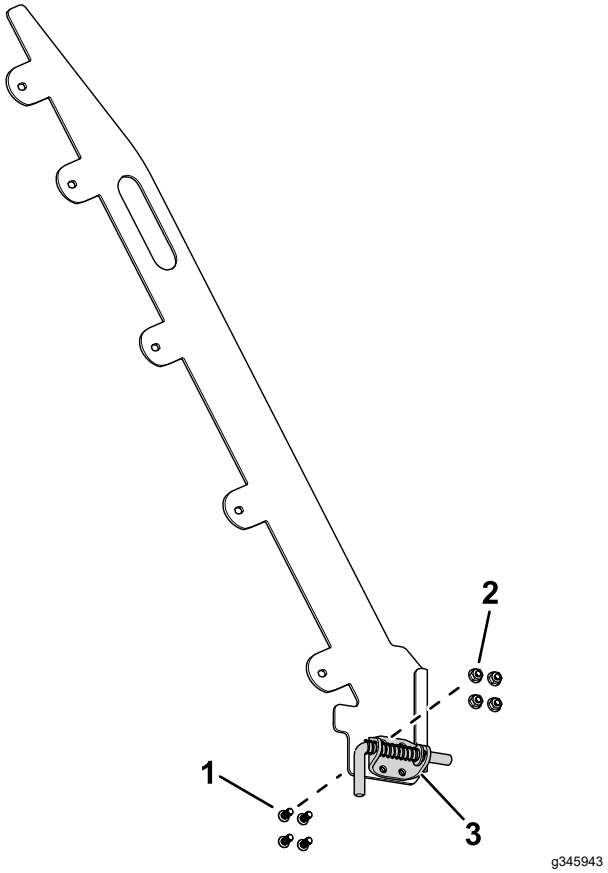


図 9

図は右側。

1. Torx ヘッドねじ
2. ナット5/16"
3. ラッチピンブラケット

2. ボルト5/16 x ¾"10 本とナイロックナット 5/16"10 個を使用して、ガイドプレートをランプアセンブリに固定する図 10。

   ガイドピンは、ラッチピンを外側に向けて取り付けること。ガイドプレートを正しく取り付けた状態は、図 30 トレーラへの積み込み (ページ 12)を参照のこと。

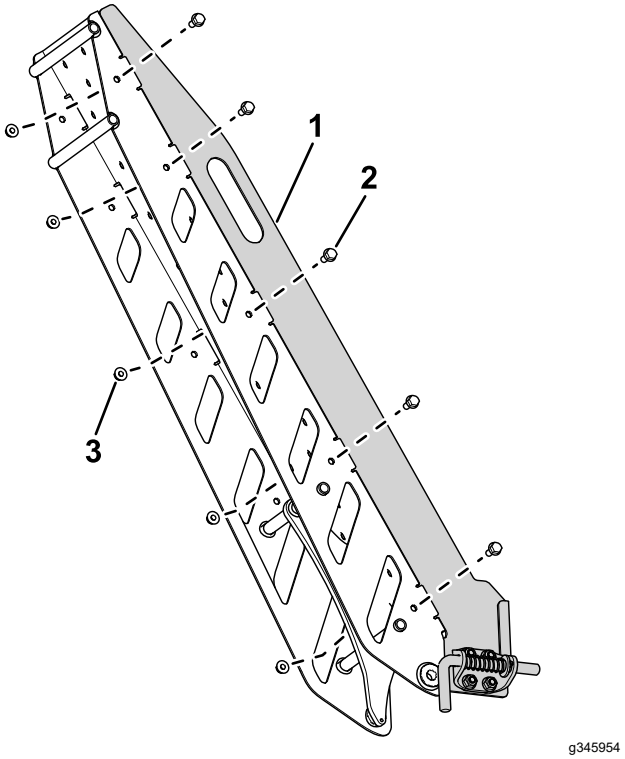


図 10

1. ガイドプレート
2. ボルト5/16" x ¾"
3. ナイロックナット5/16"

3. ナット¼"を使用してバンパーをランプアセンブリに取り付ける図 11。

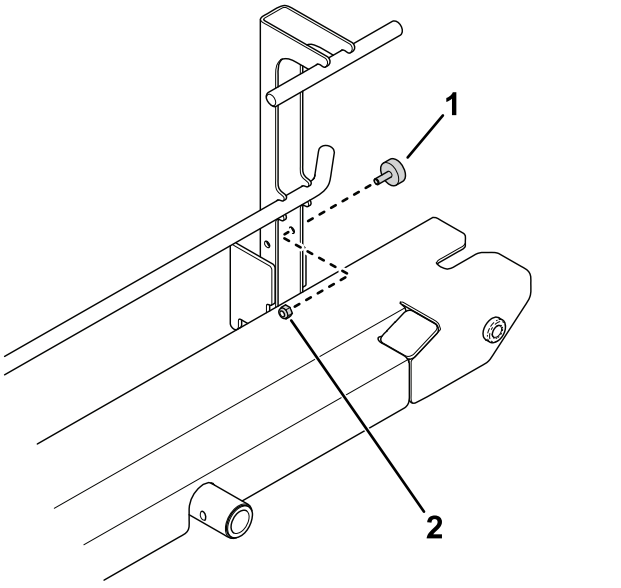
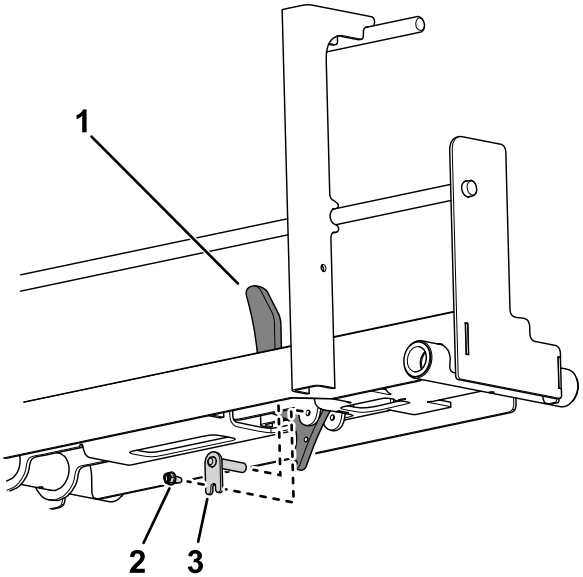


図 11

1. バンパー
2. ナット¼"

4. フラッグピンと六角ヘッドねじを使用して、ホイールストップをレールアセンブリに固定する図 12。

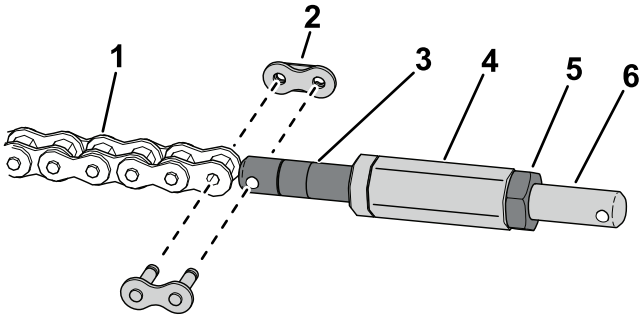


g340442

図 12

1. ホイールストップ
2. 六角ヘッドねじ
3. フラグピン

5. チェーンリンクを使って、チェーンをターンバックルに取り付ける図 13。

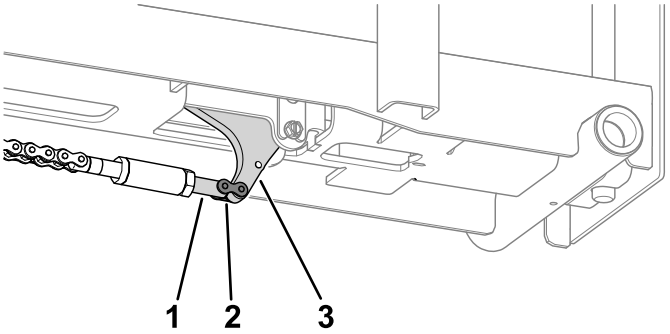


g348128

図 13

1. チェーン
2. チェーンリンク
3. チェーン・ターンバックル
4. 六角シャフト
5. ジャムナット
6. チェーンリンク・ターンバックル

6. チェーン・ターンバックルに六角シャフトを取り付ける図 13。
7. ジャムナットを使って、チェーンリンク・ターンバックルを六角シャフトに取り付ける図 13。
8. チェーンリンクを使って、チェーンリンク・ターンバックルをホイールストップに取り付ける図 14。

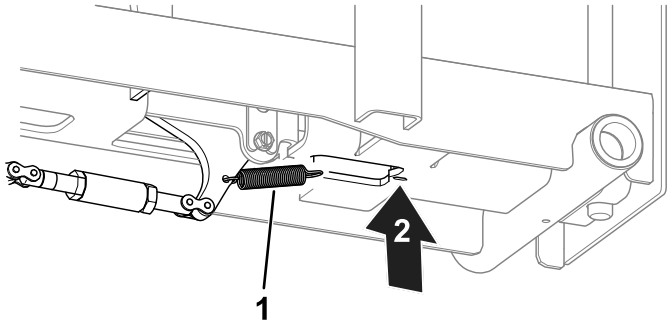


g341296

図 14

1. チェーンリンク・ターンバックル
2. チェーンリンク
3. ホイールストップ

9. ホイールストップとランプ底部にスプリングを取り付ける図 15。

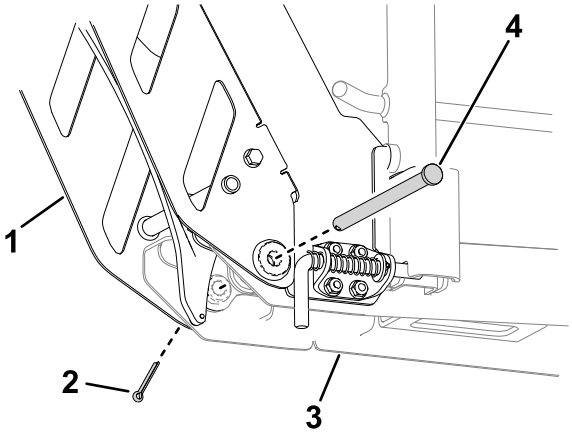


g341295

図 15

1. スプリング
2. ここにスプリングを取り付ける。

10. ピボットピンとコッターピンを使用して、ランプアセンブリをレールアセンブリに固定する図 16。



g349912

図 16

1. ランプアセンブリ
2. コッターピン
3. レールアセンブリ
4. ピボットピン

11. チェーンリンクを使って、それぞれのチェーンをランプアセンブリに取り付ける図 17。

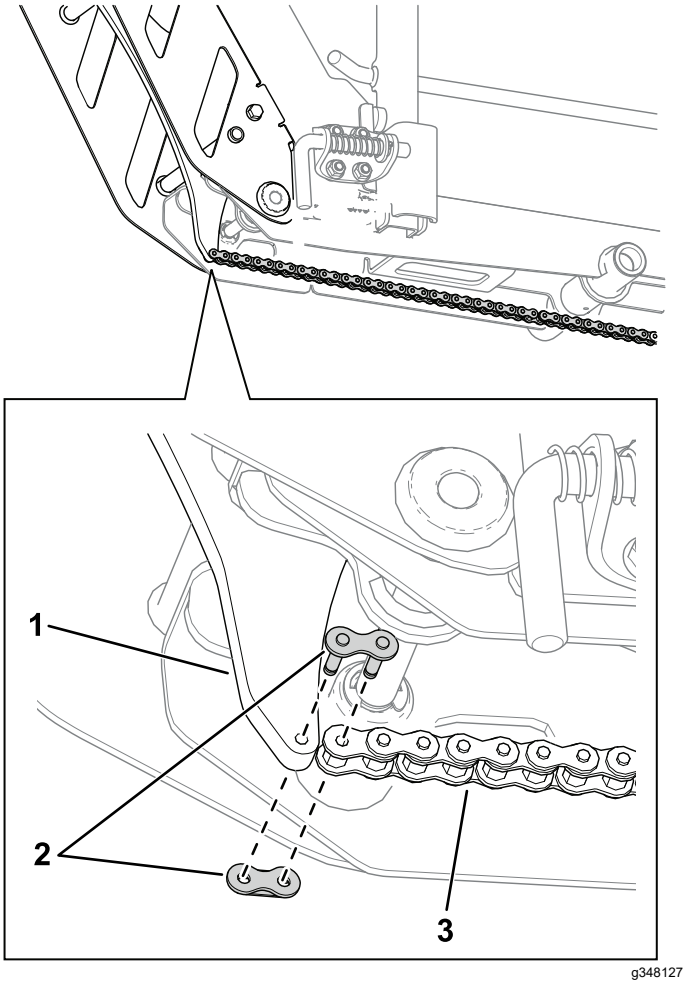


図 17

1. ランプアセンブリ
2. チェーンリンク
3. チェーン

トレーラを組み立てる

メインフレームにサポートロッドを取り付ける

1. メインフレームの中央サポートを図 18のようにセットする。

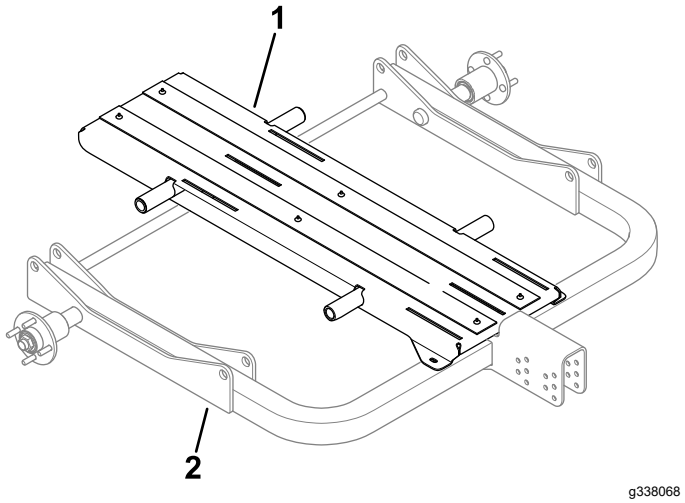


図 18

1. 中央サポート
2. メインフレーム

2. 一人がホイールキットまたはレールキットと中央サポートを所定位置に支え、もう一人がサポートロッドをキット、中央サポート、メインフレームに通す図 19。

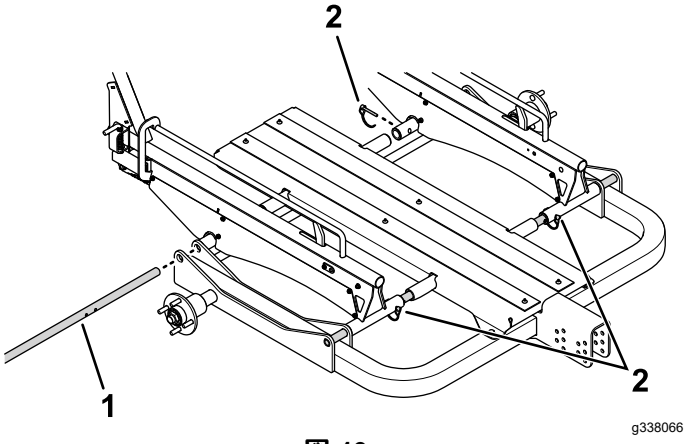


図 19

1. サポートロッド
2. ピン

3. 搬送するマシンの幅に合わせて、ホイールキットまたはレールキットの穴にピンを 4 本通すトレーラの幅の設定 (ページ 10)を参照。

中央サポートをメインフレームに固定する

ねじ⅜"2本を使って、中央サポートをメインフレームに固定する図 20。

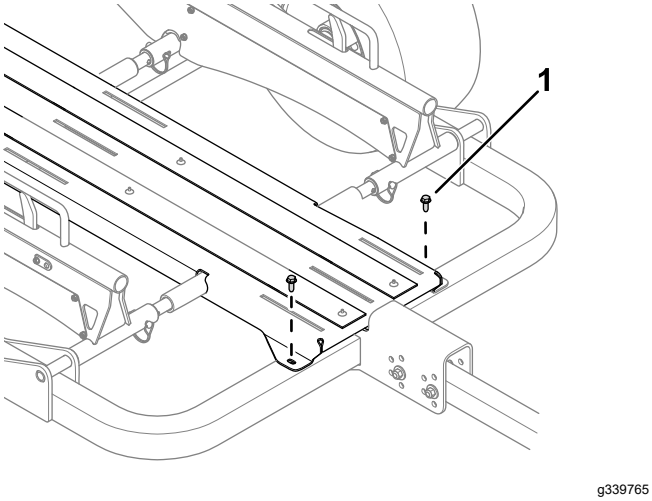


図 20

1. ねじ3/8 インチ

車輪を取り付ける

1. 各アクスルハブにホイールアセンブリラグナット 4 個 を使用する図 21。

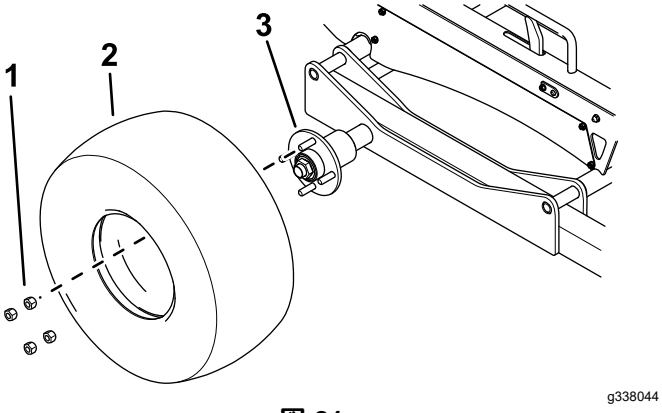


図 21

1. ラグナット
2. タイヤ
3. アクスル

2. ラグナットを、 ホイールナットのトルクを点検する (ページ 16)に示されている値にトルク締めする。
3. タイヤ空気圧を、 タイヤ空気圧を点検する (ページ 15)示されている値に調整する。

中央サポートにローラマウントを取り付ける

キャリッジボルト 6 本とフランジナット5/16"6 個を使用して、中央サポートにローラマウントを固定する図 22。

ローラマウントが中央サポート上を前後に動ける程度にボルトナットを仮止めする。本締めは、トレーラに実際にマシンを乗せた後に行うトレーラへの積み込み (ページ 12)を参照。

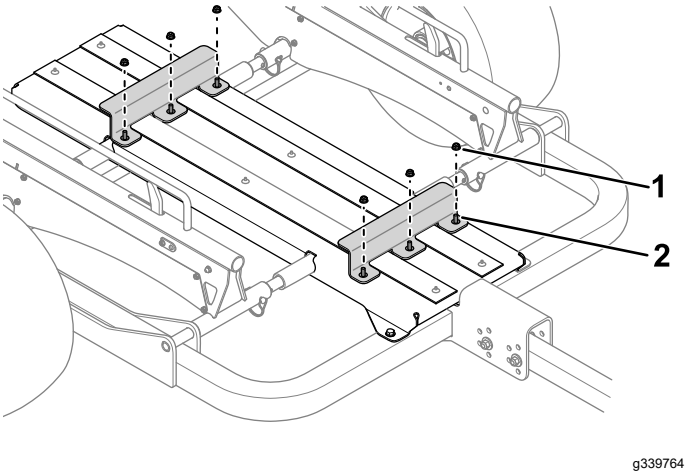


図 22

1. フランジナット (5/16")
2. キャリッジボルト

メインフレームにトレーラトングを取り付ける

1. ボルト7/16" 2 本、ワッシャ 4 枚、ロックナット 2 個で、トレーラトングをメインフレームに固定する図 23。

   トレーラを牽引車両に取り付けたときにトレーラトングが地表面と平行になるように調整する。トングが地表面と平行であることを確認してトルク締めを行う。

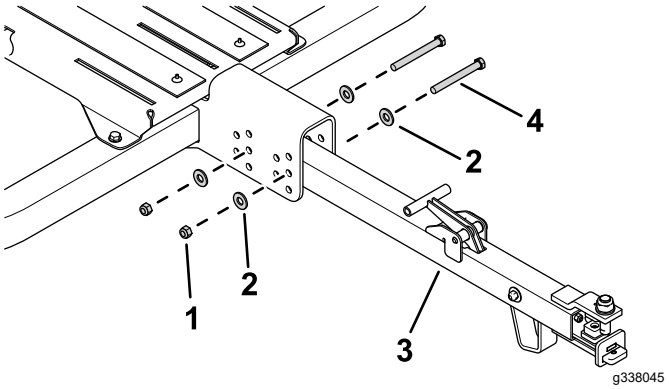


図 23

1. ロックナット
2. ワッシャ
3. トレーラトング
4. ボルト7/16 インチ

2. 各ナットを 95 N·m9.7 kg.m = 70 ft-lbにトルク締めする。

運転操作

搬送可能なモア

このトレーラは、以下に挙げるグリーンズマスターを、追加的なキットなしで搭載搬送することがが可能です

マシン名称	モデル
グリーンズマスター 1018	04820
グリーンズマスター 1021	04830
グリーンズマスター Flex 1018	04850
グリーンズマスター Flex 1021	04860
グリーンズマスター e1021	04831
グリーンズマスター eFlex 1021	04861

このトレーラは、追加的なキット別売を取り付けることにより、以下に挙げるグリーンズマスターを搭載搬送することが可能です

- グリーンズマスター Flex 18/21 シリーズ
- グリーンズマスター Flex 1800/2100 シリーズ eFlex を含む
- グリーンズマスター 800/1000 シリーズ

詳細については弊社代理店におたずねください。

トレーラの幅の設定

注 幅が 21" よりも大きいグリーンモアグリーンズマスター 1026 などをこのトレーラに載せることはできません。

- 幅が 18" のグリーンモアの場合ピンを使用してレールピボットを内側の穴に固定します図 24。

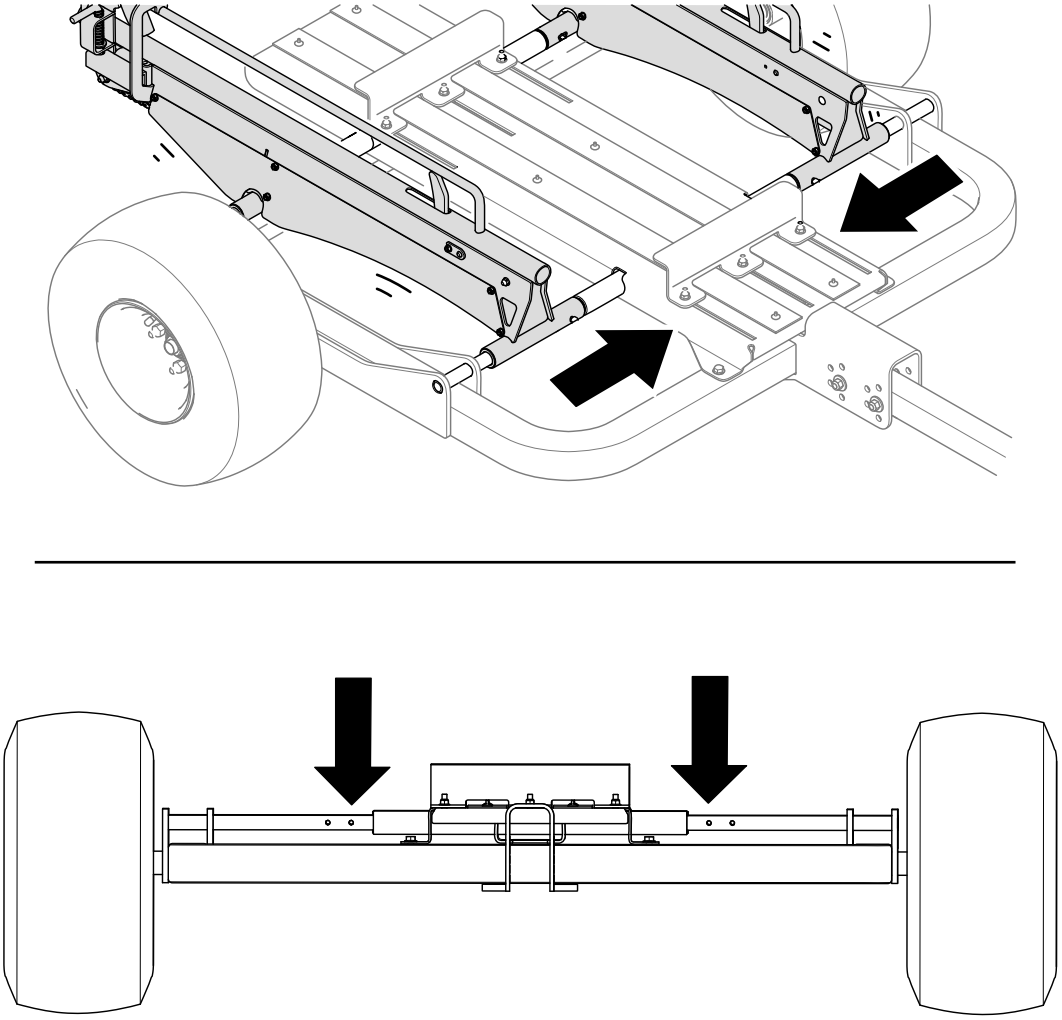


図 24

- 幅が 21" のグリーンモアの場合ピンを使用してレールピボットを外側の穴に固定します図 25。

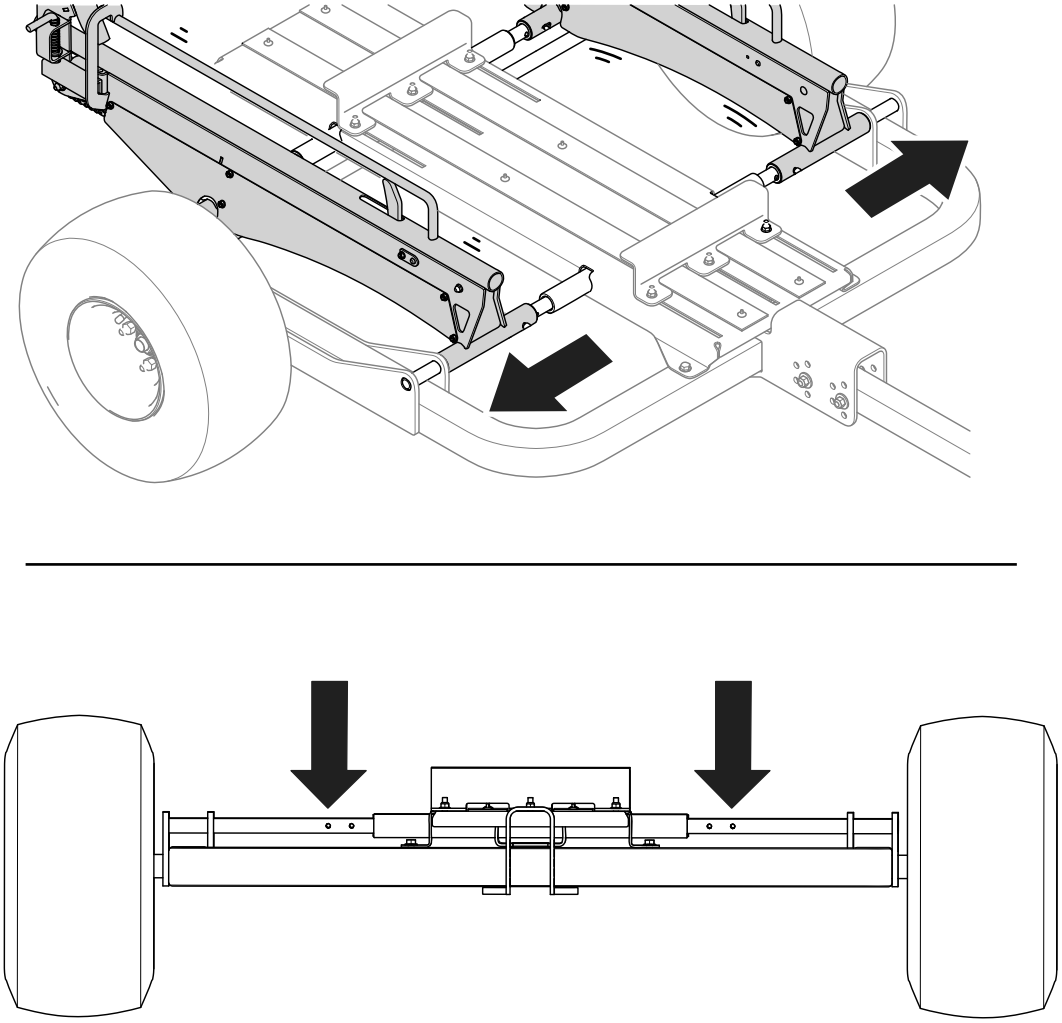


図 25

トレーラを牽引車両に接続する

1. トングハンドルを持ち上げる図 26。

   注 ハンドルを持ち上げるとスライドアセンブリがラチェット移動します。

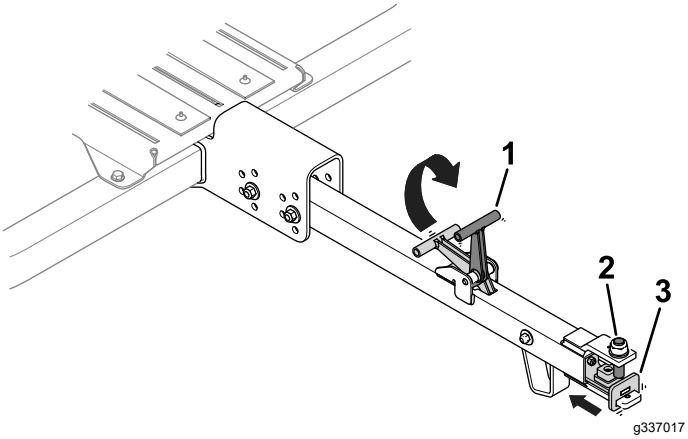


図 26

1. トングハンドル
2. トングピン
3. スライドアセンブリ

2. トングピンを、牽引車両のヒッチに合わせる図 27。

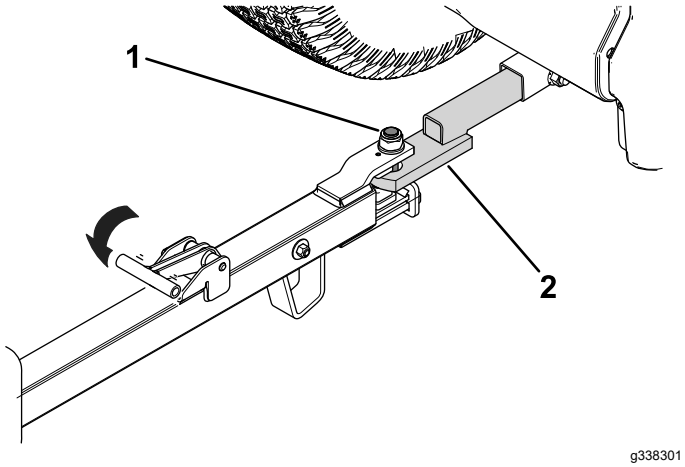


図 27

1. トングピン
2. 牽引車両用のヒッチ

3. トングハンドルをゆるめて図 27トレーラが牽引車両のヒッチに固定する。

   スライドアセンブリがトングピンの下、中央にあることを確認する。

トレーラへの積み込み

トレーラを積み込む準備

1. トレーラのホイールに輪止めを掛ける
2. トレーラ両側のラッチピンを引いて、レールまたはランプを地表面に降ろす図 28。

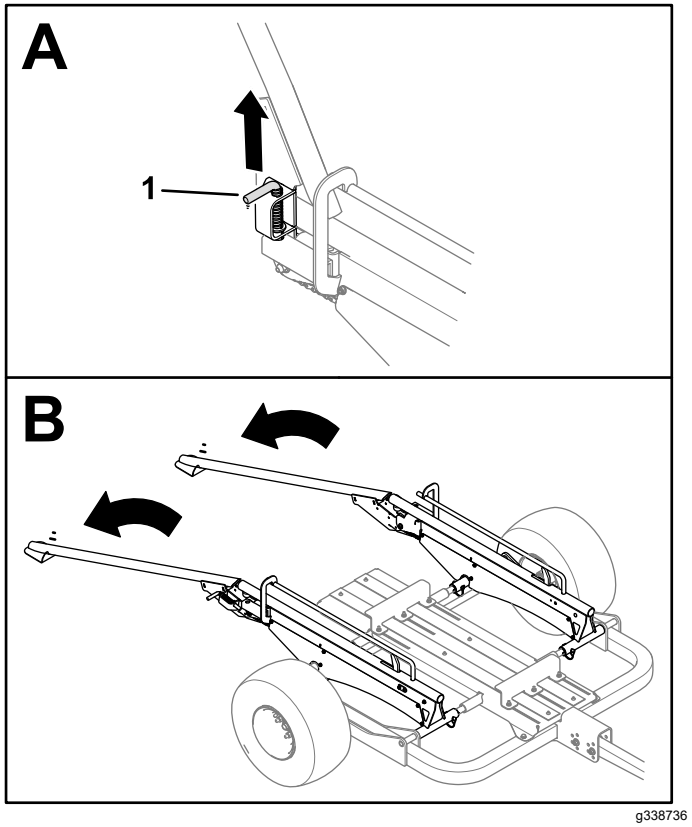


図 28
レールキット搭載機

1. ラッチピン図は右側

3. グリーンモアの集草バスケットを外す。

   注 バスケットは牽引車両の荷台に置いてください。

4. 取り付けたキットランプまたはレールの取扱い説明に従って使用する
   - **レールキット**モアの六角シャフトにレールホイールを取り付ける図 29。

     注 どの歩行型グリーンズマスターでも、レールホイールクリップはスロットを外向けにしてください。

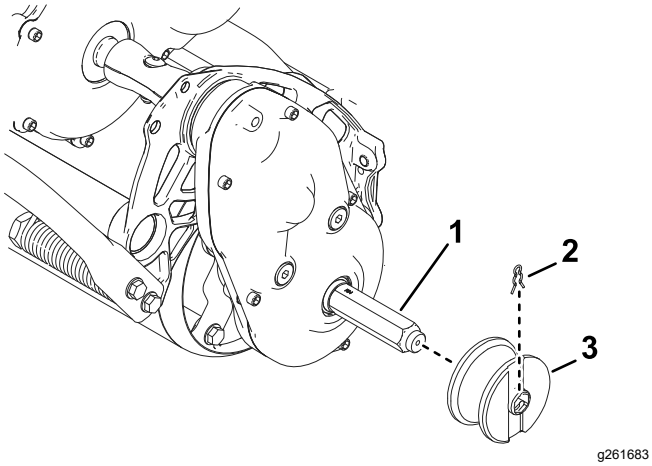


図 29

1. 六角シャフト
2. クリップ
3. レールホイール

- **ホイールキット**モアの六角シャフトに移動走行用タイヤを取り付ける各トラクションユニットの*オペレーターズマニュアル*を参照。

トレーラにマシンを載せる

1. フラットランプまたはレールを使って、モアをゆっくり前進させてトレーラ上に載せ、前ローラがローラマウントの間に入ったら停止させる図 30。

   注 モアを初めてトレーラに載せる時には、ローラマウントは仮止め状態にしておき、マウントがローラに押されて前に動けるようにしておいてください。

2. マシンのエンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。
3. マシンを 2 台同時に運ぶ場合には、ステップ 1 と 2 をもう一度行って 2 台目を載せる。前ローラがローラマウントの間にぴったり嵌るようにすること。
4. ランプを取り込み、ラッチピンを掛ける図 30。
   - ホイールキット搭載トレーラではランプを持ち上げる時、ラッチピンアセンブリが自動的にロッキングブラケットを閉じ、ランプを上昇位置に保持します。
   - レールキット搭載トレーラではラッチピンを持ち上げ、ランプを持ち上げてラッチピンから手を離すと、ランプが上昇位置に保持されます。

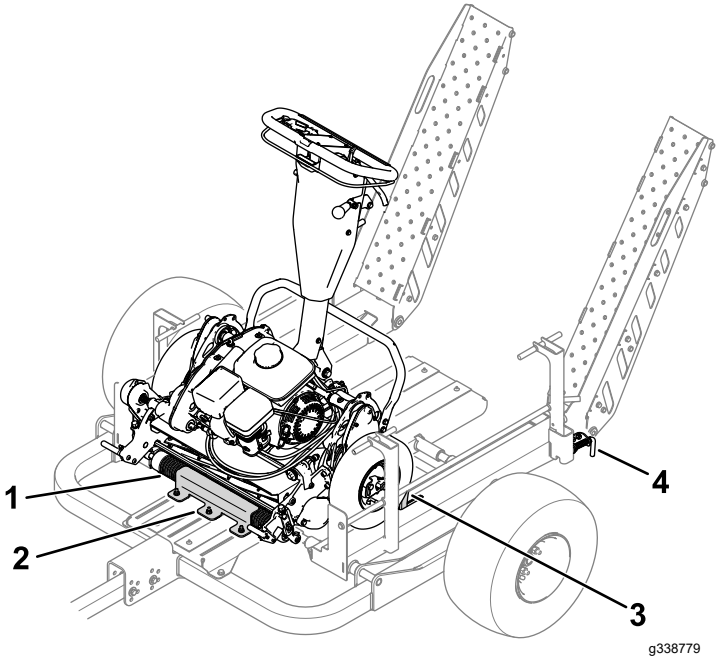


図 30
ホイールキット搭載機

1. 前ローラ
2. ローラマウント
3. ホイールストップ
4. ラッチピン図は左側

5. モアを初めてトレーラに載せる時には、モアを適切に固定できるように、以下の作業を行ってください。
   A. ランプを上昇位置に固定した状態で、後方にあるモアをトレーラユニットの後方に動かして、移動走行タイヤまたはレールホイールをランプに接触させる。
   B. 後ろ側のローラマウント図 31を後方にずらして後側モアの前ローラに当てる。

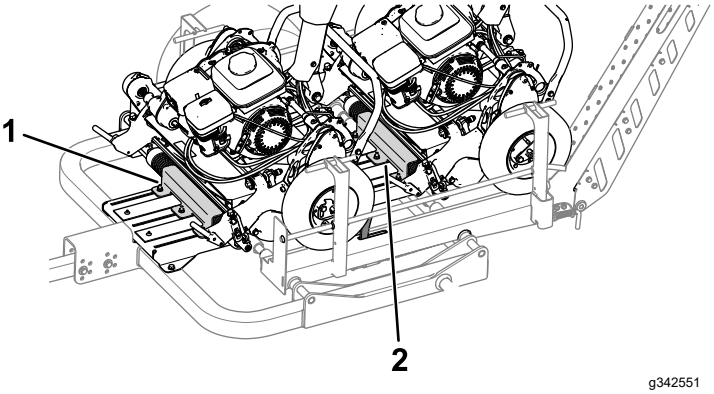


図 31
左側ホイールは図示していない

1. 前側ローラマウント
2. 後側ローラマウント

   C. 前ロータが完全にローラマウントの下に入っていることを確認したら、ローラマウントを固定しているフランジナットを本締めする ローラ

マウントを固定しているボルトナットのトルクの点検 (ページ 15)を参照。

D. 前側のモアを交代させて、移動走行タイヤまたはレールホイールをホイールストップに当てる。

E. 前側のローラマウント図 31を後方にずらして前側モアの前ローラに当てる。

別のマシンや、構成の異なるマシングルーマキットを搭載しているマシンなどを搭載する場合には、それぞれのマシンがトレーラ上に適切に固定されるように上記の作業を行ってください。

保守

推奨される定期整備作業

整備間隔	整備手順
使用開始後最初の 10 時間	· ホイールナットのトルクを点検します。
使用するごとまたは毎日	· タイヤ空気圧を点検する。
1年ごと	· ホイールベアリングが自由に回転できるかを点検します。 · チェーンを潤滑する。 · ローラマウントを固定しているボルトナットのトルクを点検する。 · ストップギャップを点検する（レール搭載式キットのみ）

タイヤ空気圧を点検する

整備間隔: 使用するごとまたは毎日

タイヤの規定空気圧0.34 bar1.4 kg/cm2 = 5 psi

タイヤ空気圧を点検する図 32。タイヤ空気圧のスペックに合わせて空気圧を増減して調整する。

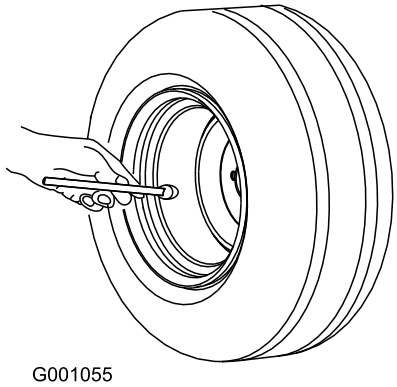


図 32

ホイールベアリングが自由に回転できるかを点検する

整備間隔: 1年ごと

1. トレーラに載せてあるモアをすべて降ろす。
2. トレーラをジャッキアップし、スタンドで支える。
3. 各ホイールに過剰なガタが出ていないかタイヤとハブアセンブリ点検する。

   大きなガタがある場合には、弊社ディストリビュータにご連絡ください。

チェーンの潤滑

整備間隔: 1年ごと

各チェーンに汎用グリスを塗る。

ローラマウントを固定しているボルトナットのトルクの点検

整備間隔: 1年ごと

マウントを固定具図 33を 79 N·m8.0 kg.m = 700 in-lbにトルク締めする。

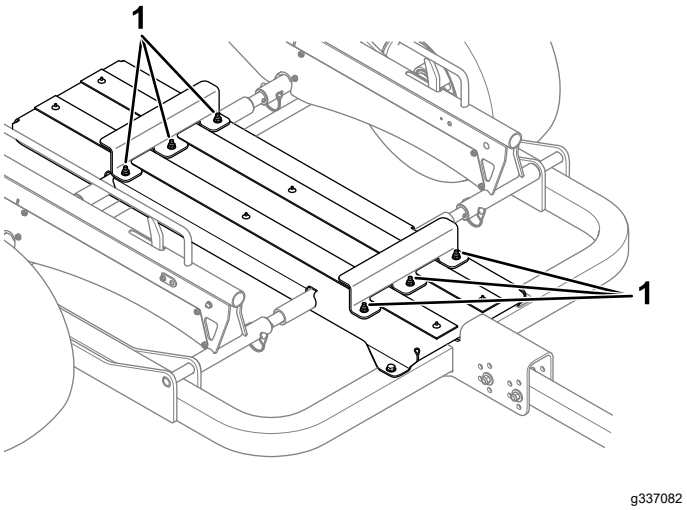


図 33

1. ローラマウント固定具

ホイールナットのトルクを点検する

整備間隔: 使用開始後最初の 10 時間

規定トルク 108 N·m11.0 kg.m = 80 ft-lb用

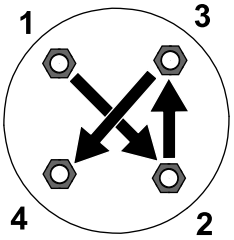
ホイールを取り付けた時と、その後の最初の10運転時間経過後にホイールナットの締め付けトルクを点検してください。

図 34に示される順序でホイールナットを所定値まで締め付ける。

⚠ 警告

この整備を怠ると車輪の脱落や破損から人身事故につながる恐れがある。

各ラグナットを所定のトルクにトルク締めする。



g274650

図 34

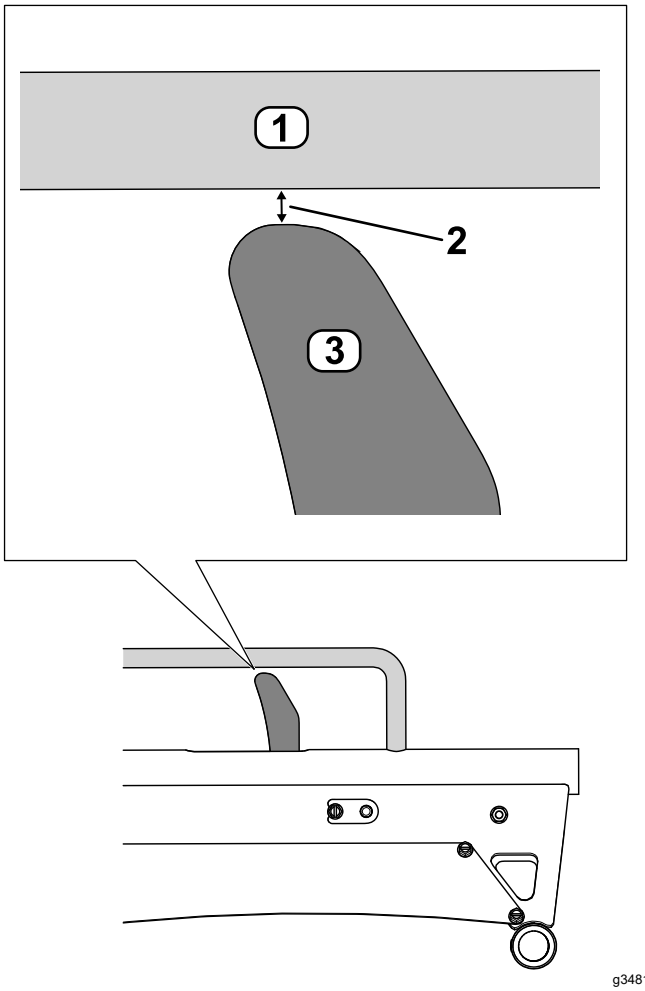
ストップギャップの点検

レール搭載式キットのみ

整備間隔: 1年ごと

ランプを上昇位置に固定した状態で、ストップとレール下部との間の距離を測定する。

図 35に示すように、この距離が 2.5 mm であれば適正とする。 所定距離でない場合には、ターンバックルとジャムナットで適正距離に調整する。



g348160

図 35

1. レール
2. すきま2.5 mm
3. ストップ

メモ

EEA/UK におけるプライバシーに関するお知らせ

Toro によるお客様の個人情報の利用について

The Toro Company (“Toro”) は、お客様のプライバシーを尊重します。弊社の製品をお買い上げ頂いた際、弊社ではお客様に関する情報を、お客様から直接、あるいは弊社の支社や代理店を通じて入手いたします。入手した情報は、お客様との契約を履行するために使用されます。具体的には、お客様のための製品保証登録、保証請求の処理、万一製品をリコールする場合のご連絡、さらには弊社の事業を進めるため、たとえばお客様満足度を調査したり、製品の改良、またお客様にとって役に立ちそうな製品のご紹介などに使用します。また、トロが上記の業務を遂行するために必要となる活動のために、弊社の子会社、提携会社、代理店などのビジネスパートナーに情報を開示する場合があります。また、法律に基づく要請があった場合や、事業の売却、買収、合併などが発生した場合にはお客様の情報を開示する場合があります。ただし、マーケティングのためにお客様の個人情報を他社に売ることは絶対にいたしません。

個人情報の保存

Toro では、上記の目的にとって必要な期間にわたり関連法律に従ってお客様の個人情報を保持いたします。具体的な保持期間についての詳細をお知りになりたい方は以下にご連絡くださいlegal@toro.com。

セキュリティーについての Toro のお約束

あなたの個人情報についての情報処理作業は、米国またはあなたが居住される国のデータ保護関連規制よりも規制がゆるやかな第三国で行われる場合があります。あなたの情報をあなたの居住国の外に移動する場合には、弊社は必ず法律が定める手続きを踏み、あなたの情報が安全に取り扱われ適切な保護がおこなわれるように、そして正しく取り扱われるように配慮します。

アクセスと訂正

お客様には、ご自身の個人情報を閲覧・訂正する権利があり、また、ご自身に関するデータの処理に対して異議申し立てないしは禁止を申し立てる権利があります。このような権利行使をなさりたい場合には legal@toro.com にメールでご連絡ください。弊社があなたの情報を取り扱った方法に懸念をお感じになった場合には、弊社に直接申し立てをしていただくようにお願い申し上げます。なお、ヨーロッパにお住まいの皆様は、Data Protection Authority に対して異議申し立てを行うことができます。

Toro 製品保証

2 年間または 1,500 時間限定保証

保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品「 製品 」と呼びますの材質上または製造上の欠陥に対して、2 年間または 1,500 運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証は、エアレータ以外のすべての機器に適用されますエアレータ製品については別途保証があります。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「 製品 」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「 製品 」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「 製品 」を納入した弊社代理店ディストリビュータ又はディーラーに対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952–888–8801 または 800–952–2740
E-mail: commercial.warrnty@toro.com

オーナーの責任

製品のオーナーは、*オペレーターズマニュアル*に記載された整備や調整を実行する責任があります。必要な整備や調整を怠ったことが原因で発生した不具合などの問題点はこの製品保証の対象とはなりません。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません

- Toroの純正交換部品以外の部品を使用したことまたはToroの純正部品以外のアクサセリや製品を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。
- 推奨された整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。
- 運転上の過失、無謀運転など「 製品 」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 製品を使用したことによって消耗した正常なパーツ通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキパッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリングシールドタイプ、グリス注入タイプ共、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、この他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、フローメータ、チェックバルブが含まれます。
- 以下のような外部要因が原因で発生する不具合天候、格納保管条件、異物、不適切な燃料、冷却液、潤滑剤、添加物、水、薬品などの使用。
- エンジンのための適正な燃料ガソリン、軽油、バイオディーゼルなどを使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。
- 通常の使用に伴う運転音や振動、汚れや傷、劣化。通常の使用に伴う「 汚れや傷 」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類「 部品 」は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって取り付けられた部品は、この製品保証により保証期間終了まで保証され、取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。弊社が保証修理のために再製造した部品を使用する場合があります。

ディープサイクルバッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの保証

ディープサイクルバッテリーやリチウムイオンバッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量kWhが決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。
注リチウムイオンバッテリー バッテリーの保証内容をご確認ください。

クランクシャフトのライフタイム保証プロストライプ 02657 モデルのみ

トロ社の純正摩擦ディスクおよびクランク安全ブレードブレーキクラッチ統合ブレードブレーキクラッチBBC摩擦ディスクアセンブリを当初から搭載し、当初の購入者様がトロ社の推奨する運転方法および定期整備を遵守してご使用されたプロストライプ製品には、クランクシャフトの曲がり不具合に対するライフタイム保証が適用されます。摩擦ワッシャ、ブレードブレーキクラッチBBCその他のデバイスを搭載した製品には、このクランクシャフトのライフタイム保証は適用されません。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「 製品 」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

排ガス保証についてのご注意

米国においては環境保護局EPAやカリフォルニア州法CARBで定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店ディストリビュータまたはディーラへおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は弊社の正規サービスセンターにご相談ください。

カリフォルニア州第65号決議による警告

この警告は何?

以下のような警告ラベルが貼られた製品を見かけることがあるでしょう

警告ガンおよび先天性障害の恐れ —www.p65Warnings.ca.gov.

Prop 65 って何?

Prop 65 は、カリフォルニア州で操業している企業、製品を販売している企業、カリフォルニア州で販売または同州に持ち込まれる可能性のある製品のメーカーを対象とした法律です。この法律では、ガン、先天性などの出生時異常の原因となることが知られている化学物質の一覧をカリフォルニア州知事が作成維持しこれを公表しなければならないと定められています。危険物リストは、日常の生活の中で使用するものから発見された数百種類の化学物質を網羅しており、毎年改訂されます。Prop 65 の目的は、こうした物質に触れる可能性があることを市民にきちんと知らせることです。

Prop 65 は、こうした物質を含む製品の販売を禁じているのではなく、そうした製品、製品の包装、製品に付属する文書などに警告を明記することを求めています。また、こうした警告があるからといって、その製品が何等かの安全基準に違反しているということではありません。実際、カリフォルニア州政府は、Prop 65 警告はその製品が安全か安全でないかを示すものではないと説明しています。こうした物質の多くは、様々な生活用品に何年も前から使用されてきておりますが、それらの物質が今までに何らかの健康問題を起こしたという記録はありません。さらに詳しい情報はこちらへhttps://oag.ca.gov/prop65/faqs-view-all。

Prop 65 の警告は、以下のうちのどちらかを意味していますある企業が自社製品への化学物質の使用量について評価したところ、目立った危険は何一つないとされる基準を超えていることがわかった、または (2) 製品に使用している化学物質は法律で規制されているものだったので、特に評価を行うことはせず、法に従って警告文を添付することにした。

この法律は全世界に適用されるのですか

Prop 65 警告はカリフォルニア州でのみ要求される法律です。Prop 65 警告はカリフォルニア州のいたるところで目にすることができます。レストラン、八百屋、ホテル、学校、病院など、そして非常に多くの製品にも、この警告が印刷されています。さらには、オンラインやメールオーダーのカタログなどにも掲載されています。

カリフォルニア州の警告と連邦政府の上限との関係は

Prop 65 の内容は連邦政府の規制や国際規制よりも厳しいものが大変多いです。Prop 65 の規制基準値は連邦政府基準に比べてはるかに厳しく、連邦政府基準では表示義務がないが、Prop 65 では表示義務があるものが数多く存在します。たとえば、Prop 65 の基準では、一日当たりの鉛の排出量が 0.5 マイクログラムとなっており、これは連邦政府の基準や国際基準よりもはるかに厳しい数値です。

似たような製品なのに警告が付いていないものがあるのはなぜ

- カリフォルニア州内で販売される場合には Prop 65 ラベルが必要でも、他の場所で販売される場合には不要だからです。
- Prop 65 関連で裁判となった企業が、和解条件として Prop 65 警告の表示に同意したが、そうした問題に巻き込まれていない企業の製品には何も表示されていないといったこともあるでしょう。
- Prop 65 の表示は必ずしも一律に行われているわけではないのです。
- 自社内で検討した結果、Prop 65 基準に抵触しないと判断して、警告の表示を行わないことを選択する企業もあります。警告が書かれていないからと言って、その製品に対象化学物質が含まれていないということは言えません。

なぜ Toro 製品にはこの警告が表示されているのですか

Toro では、十分な情報に基づいてお客様ご自身が判断できるようにすることがベストであるという考えから、できる限り多くの情報をお客様に提供することとしております。リスト記載物質のいくつかが自社製品に該当する場合、Toro では、それらの物質のほとんどの量はごくわずかであって実際の表示義務はないことを認識した上で、排出量などを厳密に評価することなく、警告を表示するという判断をすることがあります。Toro では、自社の製品に含まれる化学物質の量が「重大なリスクはない」レベルであると認識した上で、あえてProp 65 警告の表示を行うという選択をしております。これはまた、もし Toro がこうした警告を表示しなかった場合、カリフォルニア州政府や、Prop 65 の施行推進を目指す民間団体などから訴訟を提起される可能性もあるということも視野に入れての判断です。